

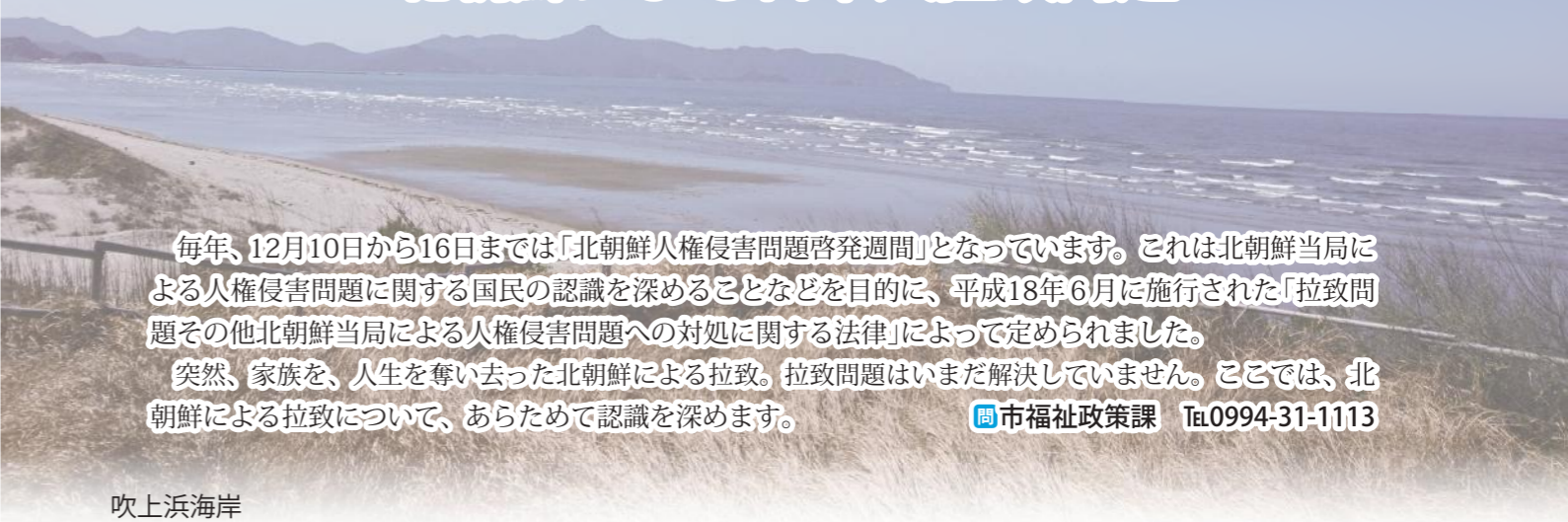
再会を信じて

～北朝鮮による日本人拉致問題～

毎年、12月10日から16日までは「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」となっています。これは北朝鮮当局による人権侵害問題に関する国民の認識を深めることなどを目的に、平成18年6月に施行された「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」によって定められました。

突然、家族を、人生を奪い去った北朝鮮による拉致。拉致問題ははまだ解決していません。ここでは、北朝鮮による拉致について、あらためて認識を深めます。

市福祉政策課 Tel.0994-31-1113



吹上浜海岸

北朝鮮による拉致問題とは

昭和45年頃から昭和55年頃にかけて、北朝鮮による日本人拉致が多発しました。現在、17人が政府によって拉致被害者として認定されています。

平成14年9月に北朝鮮は日本人拉致を認め、同年10月に5人の被害者が帰国しましたが、他の被害者については、いまだ北朝鮮から納得のいく説明はありません。

拉致問題は、日本の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題です。その解決は外交に委ねるほかありませんが、市は拉致被害者・特定失踪者がいる自治体として、問題の周知・啓発に積極的に取り組んでいます。

県内で起きた拉致事件

政府が認定する拉致被害者17人の中には、2人の県内出身者がいます。昭和53年8月、日置郡吹上町(現・日置市)の吹上浜海岸で拉致された、市川修一さん(当時23歳)と増元み子さん(同24歳)です。

2人は「浜に夕日を見に行く」と言ってお出掛けしたまま行方不明に。現場の吹上浜に残された車



市川修一さんの兄
市川健一さん(73歳/輝北町市成)

はロックされており、車内はまったく荒らされた形跡がありませんでした。

拉致被害者家族の想い

市川さんの兄・健一さん(市内在住)は、当時のことを振り返ります。

「鹿児島市内に就職していた修一は、昭和53年7月29日から31日まで帰省した際、実家の商店を手伝ってくれた。それ以来、会っていない。この12日後、行方不明となった。一生懸命探



拉致被害者
市川修一さん

し回ったが、何の手掛かりも無かった」。今の想いについては、「今年には拉致されて40年。あまりにも長過ぎる。両親が生きている間に、もう一度、修一に会わせたい」と語ります。

署名活動や講演、集会への参加など、各地で積極的に活動を行っている健一さん。「北朝鮮の人権侵害を風化させてはいけない。そのために活動を続けている。精神的にまいることがあるが、『頑張ってください』、『応援しています』という声にふれたい。私もそれまでは頑張りたい。私もそれまでは頑張りたい」と力を込めます。

「特定失踪者」とは

「特定失踪者」とは、民間団体「特定失踪者問題調査会」が北朝鮮による拉致の疑いが否定できないとしている失踪者のこと。約470人をリスト化し、うち77人を拉致の疑いが濃厚としています。県関係の特定失踪者は11人。そのうち4人が拉致濃厚とされています。

両親との再会を信じて

市内在住の前山利恵子さんは、特定失踪者で拉致の疑いが



前山利恵子さん
(70歳/新川町)

濃厚とされる園田一さん(当時53歳)・トシ子さん(同42歳)夫妻の長女。園田さん夫妻は大崎町の自宅から宮崎空港に向かう途中に行方不明となりました。当時、あまりに突然のことで、前山さんは、「何がどうなっているのか、どうすればいいのか分からなかった」と話します。



特定失踪者
園田一さん・トシ子さん夫妻

前山さんは「残された時間は少ない。なんとかしてでも両親を救いたい。つらいこともあるが、この一心があるからこそ頑張れる。今後も解決に向けた活動を

続けていく」と語りました。

「私たちにできること」

拉致問題の解決には、世論の盛り上がりが必要。一人ひとりが「拉致は決して許さない」、そして1日も早くすべての拉致被害者を取り戻すという強い意志を示すことが、この問題の解決に大きな力となるとともに、拉致被害者家族らの大きな支えとなります。すべての拉致被害者の一日も早い帰国を願い、関心を持ち続けることが大事です。

拉致被害者・市川修一さん に関連するこれまでの主な出来事

年月日	内容
昭和53年 8月12日	吹上浜で、市川修一さん増元み子さんが行方不明に
昭和60年 7月	来鹿の警察庁長官が「北朝鮮のスパイ活動に関心を持っている」と表明
昭和62年 11月29日	大韓航空機爆破事件で逮捕された元工員が日本人拉致の存在を告白
昭和63年 3月	国家公安委員長が、市川さんと増元さんら昭和53年の3件の男女失踪を「北朝鮮による拉致の疑いが濃厚」と国会答弁
平成3年 5月	鹿児島県警が市川さんと増元さんの失踪事件を「拉致の可能性」として対策班を設置
平成7年	元工員が平成2年頃、北朝鮮で市川さんを見た証言
平成9年 3月25日	全国の被害者家族が「北朝鮮による拉致被害者家族連絡会」を結成
5月	警察庁警備局長が、市川さんと増元さんら7件10人を「北朝鮮による拉致の疑いが濃厚」と発表
平成14年 9月17日	金正日総書記が拉致を認め、謝罪
10月15日	拉致被害者5人が帰国
平成20年 11月15日	市川さんの母・トミさん死去
平成26年 8月4日	市川さんの父・平さん死去

特定失踪者・園田一さん・トシ子さん夫妻 に関連するこれまでの主な出来事

年月日	内容
昭和46年 12月30日	園田一さん、トシ子さん夫妻が大崎町野方の自宅から宮崎空港へ向かう途中に行方不明に
平成15年 1月10日	拉致被害者家族会の支援組織「救う会」が、特定失踪者問題調査会を発足
平成16年 5月21日	特定失踪者問題調査会が園田さん夫妻を「拉致の疑いが濃厚」と発表
9月28日	園田さんの家族が鹿児島県警に国外移送目的略取誘拐容疑の告発状を提出
10月	鹿児島県警が国外移送目的略取誘拐容疑の告発状を受理
平成26年 7月4日	北朝鮮が、特定失踪者を含む拉致被害者を再調査する特別調査委員会を設置
平成28年 2月12日	北朝鮮が、拉致再調査の全面中止と特別調査委員会の解体を表明
平成29年 5月12日	特定失踪者家族会が発足
平成30年 5月26日	特定失踪者問題調査会が鹿児島市で緊急集会を開き、トシ子さんを北朝鮮で撮影したとされる写真について、「本人の可能性が高い」として、鹿児島県警に真相究明要望

北朝鮮人権侵害問題啓発週間に伴うパネル展を開催します

日時 12月10日(月)～14日(金) 8:30～17:00

場所 市役所1階ロビー、各総合支所窓口

内容 拉致問題のパネルやパンフレットの展示、ブルーリボンのツリー展示、署名活動・募金活動 など

